

〈前頁より〉

々の練習ですから、初心に戻ってやるべきことをしっかりやる。それしかないですね。

ランキングシステムの導入について、そのための特別なことは特に考えていません。大切なのは、「一本」をとる柔道をする」ということ。柔道のタイプは選手それぞれ違いますから一概にはいえませんが、どういう柔道をしよと最終的には「一本」をとりいく気持ちのある選手を育てていきたいですね。

世界の現状を考えると厳しいものがあります。昨年の無差別世界選手権に棟田康幸、高井洋平、穴井将隆と3人



勝負に対してしぶとく、自立した選手づくりを

女子監督 園田 隆二氏

ロンドン五輪に向けて新体制となり、若い強化スタッフとなりました。自分自身、全日本の監督としては若いなと感じています。しかし今回、その若さに賭けてもらったということもあると思いますので、その期待に応えられるよう、若さを発揮しながらやっていこうと考えています。

強化にあたっては、「勝負に対してしぶとく」を課題としていきます。今の選手の特徴なのか、淡白な選手や、周りを見ながら自分が出過ぎないようにやっている選手が多いように見受けられます。しかし、日本代表というのは、周りから一つ飛び出た存在でなければなりません。皆と横並びでは代表にはなれない。代表権というのはもたらすのではなく、自分からつかみとっていくものだとすることを浸透させていきたいですね。そのためには、練習時間を5分ではなく、6分、7分やる。試合時間は現在ゴールデンスコアを含めて最大8分ですから、8分でやってもいい。また、漫然とした練習ではなく、1本1本に意味を持たせ、「今、自分は何を練習しているのか」を常に意識させながらやっていきます。

自信のない部分がある選手もいると思いますが、皆いいものを持っているから強化選手に選ばれています。そのいいところを伸ばしながら、なぜ負けるのかを考え、修正していく。そうして得た勝利は選手の自信となっていくはず。同時に、選手には危機感を持ってやってもらいたくとも

の選手が出ましたが、その戦いを見て正直「ちょっとまずいな。かなり差があるのではないかと感じました。日本人はこれまで組み手が巧いといわれてきましたが、今回3人ともしっかり組んで投げられたからです。そんなことから、組み手、基礎体力といったところから見直していかなければいけないのではないかと考えています。

今年に入っていよいよ本格始動ということで、私の中では「よしやるぞ」という気持ちがいっぱいです。ロンドン五輪に向け、一つでも多く金メダルが獲れるよう頑張っていきます。



考えています。これまではケガや病気という理由で合宿を休む選手がいましたが、これからはそうした理由は認めません。やる気がなければ強化選手をやめてもらって構わない。必死にくらいついでこないと強化を切られるかもしれない、そんな危機感を持ってやってもらいたい。そして、最終的には自立した選手に育てたいですね。自立した選手とは、「試合の中で状況判断がきちんとできる」「攻め方を変えたり、相手の考えを読む」といったことができる選手のことですが、これらが抜き出ている代表的な選手が谷亮子です。だからあれだけ強いし、信頼されるというわけです。若い選手に「谷のようになれ」とはいいませんが、谷に近づけるように日々頑張ることが勝利へのチャンスを広げる道であることは間違いありません。

また、今年から新しくランキングシステムなども始まりますが、新しい方式という話に踊らされず、この1年はこれまで通りやっていこうと考えています。去年までの強化のスケジュールを加味しながらまずはやってみる。そうすれば、1年後には少し見えてくることでしょう。

いずれにせよ、監督というのは「勝たせるチームの頭」だと思います。強い選手を育てることを第一目標とし、しっかり世界で戦える選手を作っていきたいと考えています。

ロンドン五輪の先をも見据えた新しい強化体制

～若手を抜擢、一貫した強化システム構築～

12年ロンドン五輪に向けて新強化体制が発足した。これまで、強化スタッフのなかで、男女のヘッドコーチが監督も務めていたが、新体制ではそれぞれの「ナショナルチーム」、いわゆる全日本のトップに監督を位置づけた。さらに、ジュニアとシニアに担当ヘッドコーチ、コーチを配し、若手を抜擢す

るとともに経験豊富なベテランが一体となった、ジュニアからトップまでの一貫した強化体制が出来上がった。また、強化委員会の下部組織であった科学研究部の名称を「情報戦略部」と改め、IT環境を有効に活用したサポートをより充実させることとした。

男子ナショナルチーム スタッフ

監督 篠原 信一 (天理大学)
コーチ 中村 兼三 (旭化成)
特別コーチ 井上 康生 (総合警備保障)
総務兼コーチ 窪田 和則 (警視庁)

男子シニア担当

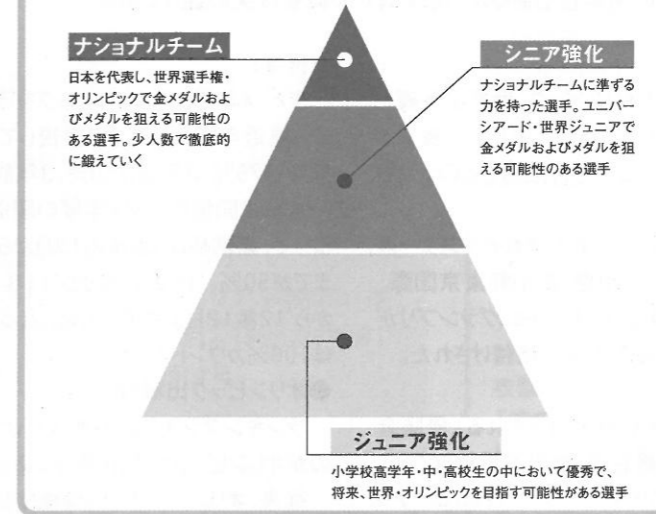
ヘッドコーチ 西田 孝宏 (山梨学院大)
コーチ 持田 達人 (警視庁)
賀持 道明 (日本中央競馬会)
金丸 雄介 (了徳寺学園)

男子ジュニア担当

ヘッドコーチ 大迫 明伸 (旭化成アミダス)
コーチ 中西 英敏 (東海大)
小嶋 新太 (日本体育大)

強化システム

強化委員長 吉村和郎 (警視庁)
強化副委員長 日蔭暢年 (ミキハウス)
強化副委員長 斉藤 仁 (国士館大)



女子ナショナルチーム スタッフ

監督 園田 隆二 (警視庁)
コーチ 田辺 勝 (日本体育大)
徳野和彦 (コマツ)
総務兼コーチ 曾我部晋哉 (甲南大)

女子シニア担当

ヘッドコーチ 白瀬 英春 (東海大)
コーチ 南條 充寿 (仙台大)
出口 達也 (広島大)
薪谷 翠 (ミキハウス)

女子ジュニア担当

ヘッドコーチ 野瀬 清喜 (埼玉大)
コーチ 三戸 範之 (秋田大)
阿武 教子 (警視庁)
松雪 博 (兵庫県警察)

女子寝技担当

ヘッドコーチ 野瀬 清喜 (埼玉大)
コーチ 三戸 範之 (秋田大)
阿武 教子 (警視庁)
松雪 博 (兵庫県警察)
渡辺 涼子 (金沢学院大)

情報戦略部のサポート

- 情報収集: 国内外の主要大会を動画撮影してデータベース化し、選手やコーチにインターネットで配信する。担当コーチや選手の要望に応え、研究対策用ビデオの作成をする。
 - 情報分析: 日本人選手や外国人選手の戦い方の分析をし、外国人選手の特徴や癖を見出すなど、科学的な角度から知見を出す。これは現場のコーチとオーバーラップするところもあり大変デリケートな問題となるが、必要に応じて提示していきたい。
 - 体力測定: 強化選手の体力測定、全国中学校大会における体力測定を実施する。測定結果は選手や所属コーチ・教員に還元し、日頃のトレーニングの目標や弱点強化のための指標となるような資料を提供する。
 - 栄養、メンタルサポート: 栄養サポート(栄養指導や減量)、メンタルサポートについては、国立スポーツ科学センターの専門職員と協力し、特にナショナルチームの合宿中や試合前のコンディショニングの調整を上手く行い、試合に臨めるようにサポートする。
 - 報告書の発刊: 年に一度、活動成果として役員による研究報告または活動報告を冊子にまとめ発刊する。これらはウェブサイトを通じて広く公開する。
 - その他: 情報戦略部員はシンクタンクである。ナショナルチームの強化に活かせる新たな科学技術はないか、他競技のサポートなどに常に情報網をはりめぐらして、新しい発想をコーチングに取り込むことを試みる。
- 部長: ◆ 射手 矢野 部員: ◆ 佐藤伸一郎、◆ 富山正一、◆ 紙谷武、◆ 窪田和則、◆ 曾我部晋哉、小山勝弘、船越正康、有賀誠司、中村勇、渡辺直勇、中村波雄、青山陽紀、清野哲也、賀屋光晴、中島裕幸、渡邊昌史、村山晴夫、木村広、鈴木なつ未、小笠原正志、坂本道人、小室宏二、鈴木智裕、桐生留作、岡田隆、横山喬之、藤本誠、石川美久、内村直也、三宅仁、石井孝法、相田裕次、村田正夫、林弘典 (◆は強化委員、順不同)

伊藤超短波の製品が日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること、医療の分野だけではなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに伊藤超短波の治療器が活躍しています。私たちは医療とスポーツの両分野で培った経験をベースに、これからもスポーツの世界を積極的に応援していきます。



伊藤超短波株式会社
〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15
TEL: 03(3812)1216(代)・FAX: 03(3814)4587
http://www.itolator.co.jp/

SEIKO

セイコースポーツライフ株式会社

セイコーは全日本柔道連盟のオフィシャルタイマーです。

〒113-0024 文京区西片1-17-8 KSビル
TEL: 03-6834-2750(代表) FAX: 03-6834-2859
http://www.seiko-sl.co.jp

世界の檜舞台に Sブランド

JOAS 選手用 最高級背継二重輪柔道衣

¥23,100~¥30,975

KUSAKURA I.J.F Official Supplier.

早川繊維工業株式会社

スピーディなサービス提供がシミズオクトの財産です。

昭和7年(1932年)の創業以来、シミズは時代の変化の対応とともに、業界のスペシャリストとして、多種多様なイベントに携わってきました。その中には、何万人もの会場の警備や、絶対不可能と思われたステージの設計・設営、雨や風や雪の中でのイベントなど、様々な難問に直面しながらも、安心して楽しんでいただけるよう、一つ一つの課題を確実にクリアしてきました。これらの数え切れないほどの経験は今、イベントをまるごとサポートする「シミズオクト」の貴重な財産として、よりスピーディなサービスの提供とともに活かされ続けています。

株式会社 シミズオクト

本社/03-3360-7051
http://www.shimizu-group.co.jp